民間検査機関の検体に基づくゲノムサーベイランスによるBA.5検出の推定

背景

全国の変異株の発生動向を監視するためのゲノムサーベイランスの確立を目指し、今般、民間検査機関から得られた全国800検体を用いた変異株検出率の推定を感染研で実施している。

<u>対象</u>

- 国内の民間検査機関2社に集められた検体
- 全国で合計800検体/週を目途に検査(A社400検体/週、B社検体400/週)
- 毎日、検査機関側でA社では57(火曜日〜土曜日)〜115(月曜日)検体、B社では65〜70(平日)、〜40(土曜日)検体を抽出した後、ゲノム解析検査を実施し、感染研病原体 ゲノム解析研究センターのCOG-Jpを用いたデータ解析後に、週ごとに感染研病原体ゲノム解析研究センターに報告(同時に感染研病原体ゲノム解析研究センターでもCOG-Jpで共有されたデータを解析)

BA.5検出率解析方法

- ゲノム解析データを基に、PANGO lineageを決定(病原体ゲノム解析研究センターで実施)。
- 全てのウイルスがオミクロン株BA.5に置き換わることを前提に、Lineageが判明した検体数(解析不能分を除く)に占めるBA.5検出検体の割合をロジスティック成長モデル にフィットさせ、週ごとの推定を行った。日別のデータを基に解析したロジスティック成長モデルを基にGrowth Advantage(感染性・伝播性の増加)を算出した。また、各系 統・株の検出割合を多項ロジスティック回帰モデルにフィットさせ、週ごとの推定を行った。多項ロジスティックモデルを基に、各株による患者数を推定した。

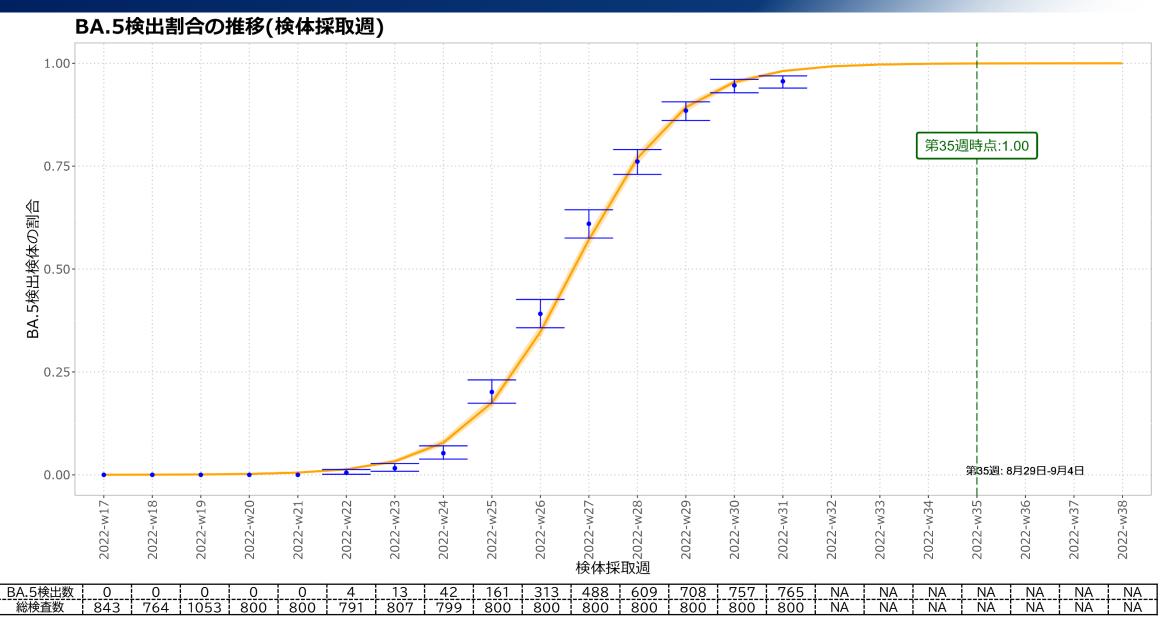
<u>特徴</u>

- 都道府県別のランダムな対象の抽出に厳密な基準を設定していないこと、及び各地域の対象数を考慮すると、地域(都道府県別)の偏りについては検査時点では考慮不可(後に 判明)であり、地域ごとの代表性の確保はできない(原則、全国と限られた地域での分析のみ考慮)。
- 本サーベランスの対象は、民間検査機関に集められた検体で、個別に医療機関を受診した症例の検査検体が中心であり、集団発生の影響が比較的少なく、実際の地域の感染状況を反映しやすいと考えられる。
- GISAIDのデータより、1~2週間早く解析できる。

補足

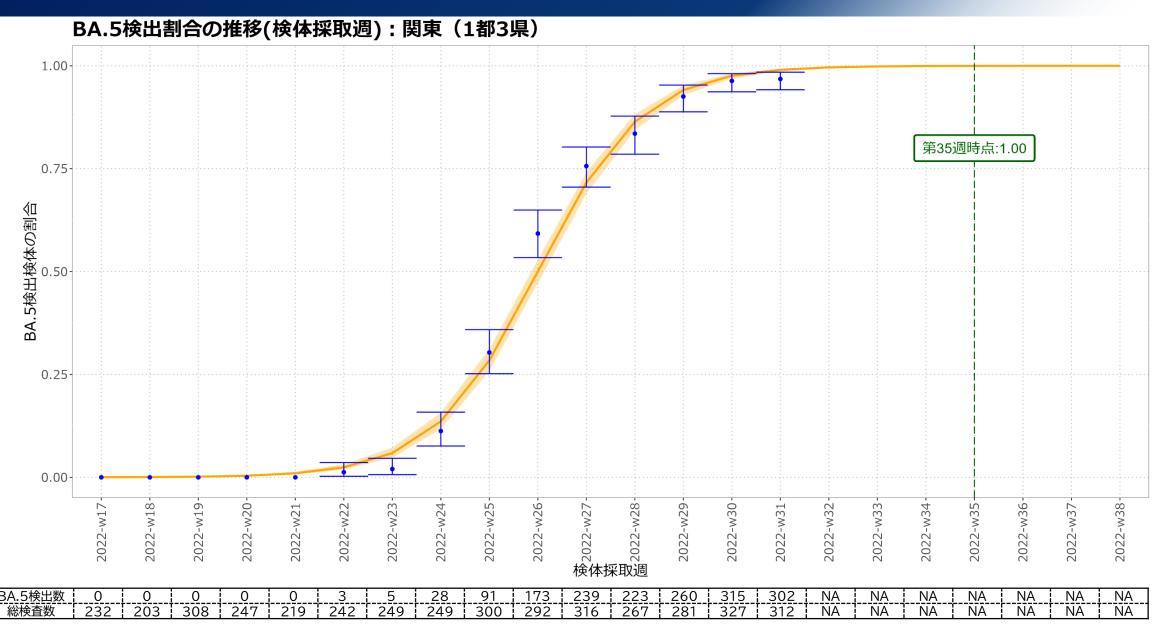
- 検査会社により検体の抽出方法は異なるが、全国一律の検体プールからランダムに抽出するA社に限定した場合でも全国的な傾向は同様であった。
- COG-JPに自治体から登録されたデータを使用したBA.5検出の推定と比較し、全国的な傾向は同様であった。

BA.5検出割合の推移(8月23日時点データ)

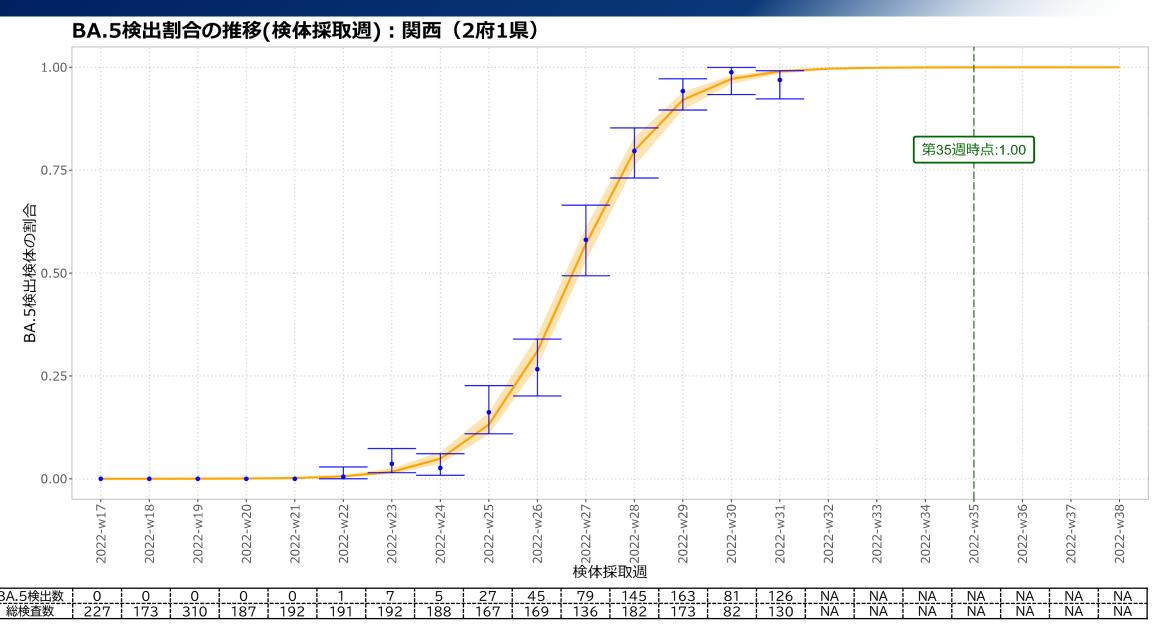


青点は検体採取週ごとのBA.5(下位系統含む)検出割合、青バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。最終的にすべてのウイルスが BA.5に置き換わることを前提とし、置き換わりの推定を橙ライン、95%信頼区間を淡橙帯で示す。

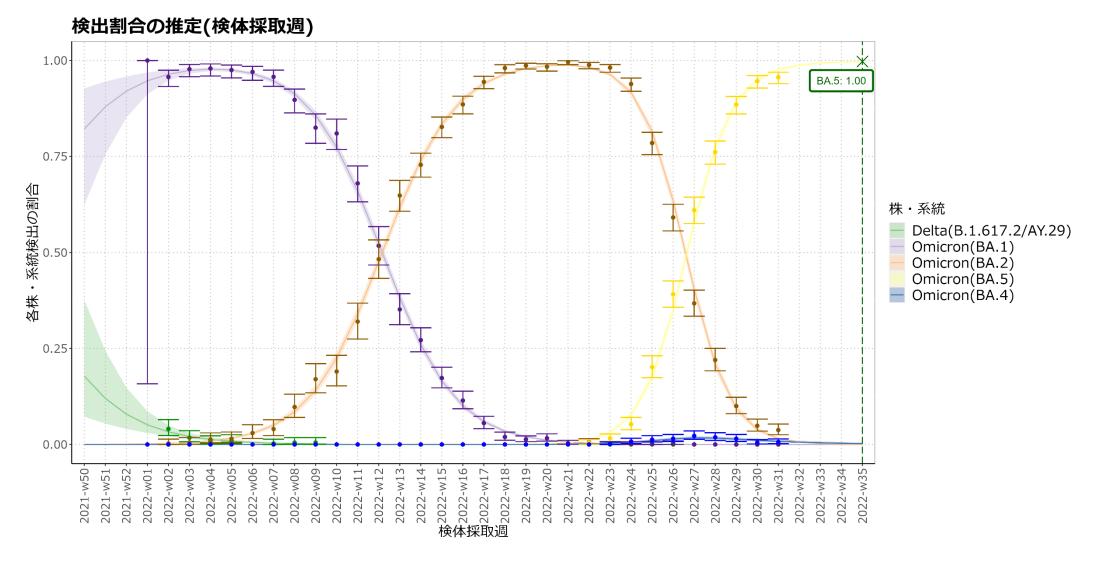
地域別:BA.5検出割合の推移(8月23日時点データ)



地域別:BA.5検出割合の推移(8月23日時点データ)



各株・系統検出割合の推移(8月23日時点データ)-多項ロジスティック回帰モデルの曲線にフィット-



点は検体採取週ごとの各株・系統の検出割合、バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。各株・系統が占める割合の推定を各色ライン、95%信頼区間 を淡色帯で示す。

Omicron(BA.2)はBA.2およびその下位系統を含む. Omicron(BA.1)はBA.1およびその下位系統を含む. Omicron(BA.5)はBA.5およびその下位系統を含む